環境県民フォーラムだより！

VOL. 52　2024年3月1日　発行

人と自然が共生するために 普段の暮らしの中でできること

（自然環境分科会）

河合雅雄（ひとはく名誉館長）の言葉より[1)]

「人類は自然科学という思考様式を手に入れてから、しだいに自然からの収奪度を高め、今や高度な文明の発達によって、地球環境問題という大規模な自然破壊を起こすに至っています。つまり、共生という立場から見れば、人と自然の関係は片利片害共生の関係に入ったことになり、残念なことに寄生虫的存在になりつつあります。」

このような寄生虫的存在の人にならないためにどうすればよいのでしょうか？

「様々な形や速度で人間社会を危機に陥れる事象が、世界中で次々に起こっています。一瞬にして物理的な崩壊をもたらす地震や気象による災害、じわじわと体の中から蝕んでいく病原体。長い時間をかけて地球にダメージを与える温室効果ガス。このような課題に対して、自分たちの命を守るために「持続可能な社会を作るにはどうすればよいか？」を誰もが常に考える。そのツールとしてまとめられたのがSDGsです。 一見、関係がなさそうな地球の裏側の自然も、私たちの普段の暮らしがどこかで関わっているかもしれません。その関わりとつながりを知ることは、私たちが日々の暮らしの中でできる環境保全を見つける第一歩になります。」[2)]

「『いただきます』という日本語。これは、人が生きるために必要な〝命〟に、その命をはぐくむ〝自然〟に、生産・収穫などの〝労働〟に、安心安全に食べられるようにする〝知恵〟に、そして一緒にご飯を食べる〝家族や仲間〟に、それらすべてへの『感謝』を表しています。たった一言の日本語が、生産の現場から流通、そして食卓までをつなぎ、数多くの感謝を表現しています。素敵な感性ですね。生物多様性という概念は、日本の暮らしに溶け込んでいるのです。」[2)]

SDGsを実践するために

SDGs（持続可能な開発目標）は、国連加盟国が2015年に合意した、2030年までに達成すべき17の目標です。これらの目標は、貧困削減、地球環境保護、社会的包摂など、持続可能な未来を築くための指針となっています。

1. **SDGsに対して知識を身につける**
   まずはSDGsの基本的な知識を身につけましょう。SDGsの目標や世界観を理解することから始めます。身近な問題や課題についても学び、SDGsに関心を持ちましょう。
2. **SDGsへの関心と理解:**
   SDGsの個々の目標や基本的な知識を学習します。問題意識を共有する仲間と話し合い、SDGsに関心を深めましょう。
3. **SDGsにおける複雑性の発見:**
   SDGsの目標は相互に関連しており、複雑な要因が絡み合っています。一つの視点だけでなく、多角的に物事を捉え、統合的に考える姿勢が求められます。
4. **SDGsの複雑性に取り組む個人や組織の行動:**
   目標設定を世界や社会ニーズに合わせて行い、持続可能性を組み込みましょう。
   SDGsをツールとして活用し、問題を統合的に捉え、解決策を見つけて行動しましょう。
5. **SDGsの複雑性に取り組む私たちの協働:**
   個人や組織の力だけでは問題解決が難しいことを認識し、協力して取り組みましょう。

【持続可能な開発目標を達成するために、さまざまな分野での取り組み】

1. **貧困削減（Goal 1）:**
   貧困層の人々への教育支援や職業訓練プログラムの提供。食糧支援や住宅プロジェクトの実施。
2. **健康と福祉（Goal 3）:**
   健康診断キャンペーンの実施。予防接種プログラムの展開。
3. **教育（Goal 4）:**
   学校建設や教育資源の提供。教育機会の平等化。
4. **ジェンダー平等（Goal 5）:**
   女性のリーダーシッププログラムの推進。女性の雇用機会の拡大。
5. **清潔な水と衛生（Goal 6）:**
   水質改善プロジェクトの実施。衛生教育の普及。
6. **気候変動対策（Goal 13）:**
   再生可能エネルギーの導入。森林保護と再植林活動。
7. **持続可能な都市とコミュニティ（Goal 11）:**
   公共交通機関の整備。都市緑地の拡充。　　など

【SDGsを実践するために考慮すること】

1. **知識と理解の獲得:**
   SDGsの基本的な知識を身につけましょう。SDGsの目標や世界観を理解することから始めます。
   身近な問題や課題についても学び、SDGsに関心を持ちましょう。
2. **問題意識の共有と議論:**
   SDGsに対する関心を深め、個々の目標や基本的な知識を学習します。
   問題意識を共有する仲間と話し合い、SDGsについて議論しましょう。
3. **複雑性の理解:**
   SDGsの目標は相互に関連しており、複雑な要因が絡み合っています。
   一つの視点だけでなく、多角的に物事を捉え、統合的に考える姿勢が求められます。
4. **行動計画の策定:**
   目標設定を世界や社会ニーズに合わせて行い、持続可能性を組み込みましょう。
   SDGsをツールとして活用し、問題を統合的に捉え、解決策を見つけて行動しましょう。
5. **協力と共同作業:**
   個人や組織の力だけでは問題解決が難しいことを認識し、協力して取り組みましょう。
   多様な主体の力を結集し、社会全体の問題対応力を高めることが重要です。

【日常生活の中で簡単に始められるSDGsに関する個人の身近な取り組み】

1. **電気や水を無駄遣いしない:**
   照明やテレビをつけっぱなしにしない。エアコンの設定温度に気をつける（夏は高めに、冬は低めに）。
   洗い物やお風呂のときに、水を出しっぱなしにしない。
2. **食品ロスをなくす:**
   消費期限内に使い切る。食材別の保存方法を調べる。外食やテイクアウトで注文しすぎないようにする。
3. **ごみを減らす・分別を徹底する:**
   自治体のルールに従って、ごみの分別を徹底する。スーパーの資源回収ボックスを利用する。
   生ごみを堆肥化する。
4. **ペーパーレス化に取り組む:**
   請求書やスケジュールをオンラインで管理する。新聞や雑誌はオンライン版を購読する。
5. **家事・育児・介護などの負担を平等に:**
   家事をリストアップして役割を決める。家事代行サービスを利用する。
6. **災害に備える:**
   家具を固定する。食料や水を備蓄しておく。避難所や経路を確認しておく。

これらの取り組みは、私たちの日常行動から始められる小さな一歩ですが、地球環境や社会に対する貢献につながります。

（自然環境分科会　有山 泰代）

【出典】1）兵庫県立人と自然の博物館、「共生のひろば3号」、2008年、3ページ　2）川延昌弘、「未来を作る道具わたしたちのSDGs」、ナツメ社、2020年

エネルギー分科会

植樹バスツアーを開催

令和5年11月18日(土)、大和郡山市立野外活動センター「風とんぼ」にて、コロナ禍で中断していた植樹活動を4年ぶりに企画し、「エコな～らライフ宣言活動」(※)を実施いただいた17名にご参加いただきました。
当日はハナミズキの植樹(5本)を行った他、ピザづくりやクラフトづくりを行いました。当日はあいにくの悪天候でしたが、なんとか無事に終えることができました。参加者の皆さまに御礼申し上げます。

(※)「エコな～らライフ宣言」とは、奈良県環境県民フォーラムが実施するCO2排出量削減キャンペーンで、「家庭で取り組める省エネ行動」の宣言・実践を目的とし、令和5年末で累計92名が宣言されています。宣言された方には植樹バスツアーをご案内しています。まだ宣言されていない方は是非趣旨にご賛同いただき、ご参画をお願いいたします。

(大阪ガス(株)　古賀)

▲ハナミズキの植樹

▲ピザづくり

エコな～らライフ宣言は、
「奈良県環境県民フォーラム」
と検索してチェックしてね！

こちらのQRコードからも
アクセス可能です

奈良県エコキャラクター
な～らちゃん

エコライフ分科会

海洋プラスチックごみ問題

今回は、「海洋プラスチック」問題を取り上げました。プラスチックは私達の生活のあらゆる場面で利用され、手軽で耐久性があり、比較的安価で生産できることから、自動車や建材などのほか、ビニールや発泡スチロールのように「使い捨て」の包装材、梱包材、緩衝材、レジ袋などにも幅広く使われています。使い捨てが想定されるプラスチックの割合は世界で36%、日本ではさらに多く61%になります。
これらの一部がきちんと処理されず雨で河川から海へと流れ込みます。
WWFジャパンの資料(注)ではすでに世界の海に1億5000万トンのプラスチックごみが滞留しており、年間800万トンのプラスチックごみが新たに流入しているとのことです。
1度流出したプラスチックは紫外線や波により小さなプラスチック粒子になります。5mm以下になったプラスチックは「マイクロプラスチック」と呼ばれ、長い年月海に残留し続け、生態系の食物連鎖で魚類や鳥類、海洋哺乳類に影響を与えています。国連経済フォーラムでは、2050年には「海洋プラスチックごみの量が海にいる魚を上回る」というショッキングな予測を発表しています。
そのような海洋プラスチック汚染問題にアメリカニューヨーク市の第15小学校の生徒たちが立ち上がり大人たちを巻き込んで「プラスチックゼロ昼食の日」を造り、使い捨てプラスチックを使わない運動を展開しました。その運動の様子をドキュメント映像に制作されたのが「マイクロプラスチックストーリー」です。エコライフ分科会において、試写会を2024.3.5(火)に開催します。今後、上映会を行う際には改めてお知らせいたします。

▲マイクロプラスチック
出典:環境省ホームページ
(https://www.env.go.jp/content/900529375.pdf)

▲漂流プラスチックごみ

(注)WWFジャパンの資料:https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3776.html

資源活用
分科会

オーシャンプラスチックをバスケットへ　～海のない奈良から～

12月6日(水)に株式会社リングスターへ見学に行きました。創業137年の工具箱メーカーで、奈良県生駒市を生産拠点として200種類以上の工具箱を販売(※工具、DIY、釣り、キャンプ、インテリア雑貨等の収納ボックスの事業展開)。職人さんの現場でも圧倒的な強度によって「壊れない」という安心と信頼を提供している国内自社製造のメーカーです。

マーケティング室　取締役室長の唐金祐太さんは今年、『海ごみの防波堤』ともいわれる長崎県対馬市へ行き、島の現状を体感したところから海洋ゴミを工具箱へというプロジェクトがスタートしました。

オーシャンプラスチックとは、海を渡って他国から海岸に流れ着いたもので、波に揉まれ紫外線を浴び、汚れや破損がひどくなったプラスチックごみとのこと。回収→分別→洗浄→再分別に膨大なコストがかかり、リサイクルが困難と教わりました。

それでも成形不良、耐久力低下、機械の故障に繋がるリスクを踏まえ、オーシャンプラスチックを利用した製品化を検討し、結果としてオーシャンプラスチック10%配合のバスケット等の製品化を実現したとのことでした。現在は、『対馬オーシャンプラスチック』シリーズ販売数に応じ、対馬市への寄付もされています。

最後に「問題提起として、プラスチックの環境問題について、根拠や透明性をもって活動している企業が少なく、消費者の正しく消費する選択肢(知識)や企業の責任や啓蒙活動も足りていない。プラスチックは“悪”ではなく、魅力や正しい捨て方をメーカーとして打ち出していかなければならない。リングスターの実現したい世界は『正しく選ぶ、正しく捨てる、正しく向き合う』です。」と唐金さんは話されました。

▲企業訪問時の様子

▲リングスター奈良事業所(生駒市)(上)、粉砕・ペレット化した海洋プラスチックごみと海洋プラスチックごみ10%配合の製品原料(下)

自然環境セミナー「出来ることから始めよう“ストップ温暖化”」の開催

11月11日、葛城市中央公民館で自然環境セミナー「出来ることから始めよう“ストップ温暖化”」を開催しました。席がなくなるほどたくさんの人が参加され、天ぷらに舌鼓を打ち、講演や事例報告を熱心に聞き入っていました。

【菜種油の料理　試食タイム】

同じ思いで連携して共通の取り組みを継続させてきた象徴でもある菜種油で揚げた天ぷらなどを同じフロアの調理室で順次試食していただきました。地元のエコ葛城市民ネットワークメンバーの心のこもった調理による久々の試食会となりました。

▲セミナー開始前の天ぷら試食

【講演「わたしたちができるかしこい省エネ」】

NPO法人奈良ストップ温暖化の会 理事長の当麻潔氏にお話いただきました。パワーポイント60ページ以上の資料で、まず地球温暖化の現状とそれに対する世界と日本の動向の説明がありました。そして各自がやるべきことが示されました。豊富な内容はとても紙面に書ききれませんが、結論からいうと、気候変動について私たちができることは、例えば窓を二重窓や複層ガラスに替えることで断熱性を高めたり、冷蔵庫を適正温度に設定、他の物と間隔をあけたりすることで省エネにするなどの『緩和策』と、熱中症対策や災害への備えとしてハザードマップの確認など、起こる現象への『適応策』の2種類で考える、というとても身近なことの数々を話されました。

▲参加者が熱心に聞き入る当麻潔氏の講演

【菜の花プロジェクトの事例発表】

菜の花プロジェクトに取り組む自然環境分科会メンバー団体の奈良追分コミュニティ、さくらい菜の花プロジェクト、山の辺の道ファンクラブ、宙塾、エコ葛城市民ネットワークがこれまでの取り組み成果や課題を発表しました。地元のエコ葛城市民ネットワークは廃食油回収からの石鹸づくり、キャンドルイベントやたい肥作りなど官民協働で循環型の取り組みを行ってきたことが報告されました。

(ほっとねっと　寺前美加)

自然環境
分科会

「やまと菜の花ねっと」
～菜の花だより・橘だより～

奈良フィールド （活動団体：大和の国・菜の花エコプロジェクト 事務局 宙塾）

私たちは、奈良市地球温暖化対策地域協議会（通称NEW）の環境学習プロジェクトの「学校との長期協働事業」として、奈良市内の2幼稚園、3小学校と菜の花の栽培を通じて世界遺産学習・ESD（持続発展学習）を実施しております。「自然の循環のしくみや地域の歴史・文化に興味を持ち、持続可能な社会や世界の平和を願う人材の育成」を目指します。11月8日には六条幼稚園が薬師寺に菜の花の苗を奉納し、そのあと富雄北幼稚園と共同で、菜種油の奉納式を行いました。4月には南門付近に奉納した10個のプランターの菜の花が開花します。お楽しみに！

他にも、春日大社、東大寺、唐招提寺、元興寺、興福寺様には関係する幼稚園、小学校の菜種油奉納式にご協力賜り、この場を借りてお礼申し上げます。

▲六条幼稚園・富雄北幼稚園から薬師寺に奉納

▲鼓阪小学校から東大寺に奉納

葛城フィールド （活動団体：エコ葛城市民ネットワーク）

2023年度も、菜の花プロジェクトをテーマとした環境教育「出前講座」を市内小学校において実施しています。春から夏にかけて市内すべての小学校で、菜の花の刈り取りから種落とし及び搾油の体験を行っております。11月には、菜の花の「植え付け」をしました。NPOが育てた苗の植付を土まみれになりながら楽しんでいる児童たちがいました。

10月から12月にかけて、廃油を使った体験として、「キャンドルづくり」をしました。児童たちがガラス瓶を持ち寄り、自分だけのキャンドルを作り上げようと、スプーンをうまく使って色付きの蝋を瓶に敷き詰めていました。

▲環境教育の一環としての苗の植え付け

▲世界にひとつのオリジナルキャンドルづくり

この後は、NPOが主体となって植え付け後の「追肥・除草」を実施する予定です。

なお、新型コロナウイルスが5類に移行したこともあり、昨年から再開した『菜の花まつり』は4月上旬に開催予定です。

山の辺の道ファンクラブ

クラブは秋のイベントとして「山の辺の道祭り」を企画、10月21日（土）をキックオフ日として11月18日（土）まで木、土、日、祭日に開催いたしました。

キックオフではNACS-J自然観察指導員奈良連絡会代表の有山泰代さんに山里に生息する山野草で食べられる食材等のお話や地球温暖化への影響等について講演していただきました。知らないことばかりで大変参考になりました。

▲綿木、ピーナツ、柿に足を止めるハイカーさんたち

期間中今春に植え付けたピーナッツや綿木を道行くハイカーさんたちに鑑賞とピーナッツ試食を楽しんでいただきました。地元の会員さんからも柿の出店がありハイカーさんに喜んでいただきました。また、特に欧米系のハイカーさんたちとの片言の会話も楽しい思い出になりました。

クラブのスタッフの皆様には連日交代で準備や対応していただき、本当にお疲れさまでした。

桜井フィールド（活動団体：さくらい菜の花プロジェクト）

▲桜の名所に向けた狛・岩坂地区での取り組み

今年度は、設立の原点に戻り今までに実施した事業の再構築に重点を置いてみました。桜井市山間地域の狛・岩坂地区は、当初100キロ程ナタネの収穫がありましたが、イノシシ・シカの被害を受けるようになり、現在菜の花畑はありません。

ですが、もう一つの目的である里山の再生事業、「さくらの植樹」により春には薄紅色に染まる里山となりました。そこで、桜の名所として次世代に引き継ぐため、再び瀬戸内オリーブ基金の助成を活用して剪定作業など森の整備を行いました。

早速、この剪定木の下で七草の会をしてSDGsの趣旨に沿って菜の花プロジェクトの活動を実施していきます。

奈良追分コミュニティ

秋には、菜の花の苗を農園と梅園に植えました。2月から3月にかけて、梅の花が咲いた後、3月から4月にかけて、菜の花が咲きだすことでしょう。1月なのに、なばなの菜の花は、すでに咲きだしています。12月の終わりには、黄色に実った大和橘の収穫を行いました。2月23日から3月17日の土日祝日には、観梅会を行います。4月6日（土）、7日（日）には、アースデイ奈良に呼応して、追分菜の花祭りを「あちこち開催」で行います。菜の花天ぷらをふるまう予定ですので、大勢の皆様の参加をお待ちしています。

▲梅園で順調に育つ菜の花

▲早く咲きだした菜の花

▲黄色く実った大和橘の収穫

橘プロジェクト（活動団体：なら橘プロジェクト推進協議会）

今年度も大和橘は、奈良古来のかけがえのないものとして、食材や製品材として広がり続けています。奈良の風土の中で育まれた厳選食材で料理されているイタリアンのお店「リストランテ　ボルゴ・コニシ」（奈良市小西町）もそのうちの一つ。オーナーシェフは、数年前に大和橘を植樹されています。 11月には全国のイタリア料理100店で同時に開催される「ITALIAN WEEK 100」参加の特別メニューの中では天然酵母パン、パスタ、メインの肉料理、小菓子と随所に大和橘のエッセンスがちりばめられました。

▲大和橘をふんだんに取り入れたコース料理の品々

例年恒例の収穫祭は12月3日大和郡山市三の丸会館で開催し、味づくり専門家　芝田宗久氏には「大和橘とフードテックの融合」－古代の味を調味料に－、株式会社中川政七商店　田出睦子氏には「大和橘を楽しむ」－大和橘の香りの良さを広める－と題したお話をしていただきました。会場では希望者に大和橘の苗をプレゼントしました。そのあと、垂仁天皇陵前の畑に植樹されている大和橘の実を希望者に収穫もしていただきました。

▲収穫祭会場で希望者にプレゼントされた橘の苗

ご寄付ありがとうございました（令和5年度）

イオンベーカリー株式会社　様
イオンペット株式会社　様
イオンリテール株式会社　様
株式会社未来屋書店　様
株式会社メガスポーツ　様
市民生活協同組合ならコープ　様

賛助会員募集

奈良県環境県民フォーラムでは賛助会員として活動をご支援いただける企業、団体等を募集しています。

特典

1. 広報誌「フォーラムだより」等刊行物をお届けします。
2. ホームページに随時氏名（ご希望の方）を掲載いたします。
3. 主催事業（省エネクッキングなど）に優先的にご参加いただけます。

編集・発行：奈良県環境県民フォーラム
【事務局】〒630-8501　奈良市登大路町30番地　奈良県環境政策課内
TEL：0742-27-8732　FAX：0742-22-1668